



おうちにあるものでボランティア！

皆様のご協力をお願いします。

おうちにある身近なものや使わなくなったものを寄付してみませんか？！
いただいたご寄付は「ラオスやケニアの生活環境改善」に役立てられます。

外貨コイン／紙幣	全ての国の紙幣とコインを受け付けています。すでに使えなくなった旧紙幣、コインも支援に役立てることができます。
未使用切手	日本および外国の未使用切手を受け付けています。
使用済み切手	日本および外国の使用済み切手を受け付けています。切手の周りを1cm程度残して切り取った状態でお送りください。
書き損じハガキ	個人情報は塗りつぶす等してからお送りください。
商品券(カード)	テレフォンカードの他、QUOカード等の商品券、金券類を受け付けています。

送付先

〒102-0092 東京都千代田区隼町2-12 藤和半蔵門コープ103号
認定NPO法人日本ハビタット協会宛

※送料はご負担をお願いします。

外部サービスと連携 /

洋服・ブランド品
ご寄付も受付中

詳細は
コチラ



ハビタットクイズ?!

世界中のコインやおれを見比べてみると、国ごとの特徴や歴史が描かれているよ！EU（欧州連合）加盟国 27ヶ国のうち、19ヶ国で使用されている共通通貨ユーロ。コインの表面は共通デザインだけど、裏面は、各国独自のデザインが採用され、国ごとの特徴がわかるよ！ユーロコインに描かれているものと対応する国名はどれかな？

1 モーツァルト

4 フクロウ

2 ダビンチの人体構成図

5 ブランデンブルク門

3 ハープ(竖琴)

ドイツ

ギリシャ

オーストリア

イタリア

アイルランド

ご協力いただきありがとうございます

2021年6月1日 ～ 2021年10月31日
(敬称略・順不同)

みなさまのご支援ご協力により、多くの国と地域において、まちづくり事業を実施することができています。心から感謝申し上げます。

会費

(株)エッチアールディ、秋本 敏文、新井 てつお、安藤 久美子、塩川 秀敏、奥野 照義、下津浦 康裕、笠 留美子、宮田 秀子、宮本 知枝、錦織 葆、今井 一彦、酒井 純子、佐々木 節子、佐藤 昭二、坂本 春生、山口 美知子、水口 喜美子、水上 美佐子、清水 雄二、村野 啓子、大橋 俊枝、大崎 博之、大庭 きみ子、丹羽 浩康、堤 かなめ、田村 哲夫、遠見 幸蔵、藤本 貴也、樋渡 テノ、富取 善彦、平井 功、林 裕二、木下 ハツ子、マリ・クリスティーヌ、滝澤 進、山本 博子

ご寄附

SI-長崎ガーランド、SI- 八代、SI- 熊本さくら、新井 てつお、井村 亨、遠見 幸蔵、笠 留美子、宮田 秀子、宮本 弘子、兼平 剛志、岡田 耕造、今井 一彦、酒井 純子、三浦 教子、山口 美知子、松本 正子、森 多賀子、大塚 俊之、丹羽 浩康、中井 禮子、中村 勇、田中 正昭、渡邊 きぬ子、内田 俊隆、樋口 謙一郎、藤田 美江子、富取 善彦、富成 裕一、平井 功、日本郵船(株)、三菱商事(株)、ソフトバンク(株)

マンスリーサポーター

安藤 芳子、伊東 雄、伊木 常昭、今村 稔、上山 佳彦、太田 敏子、大下 悟、岡田 耕造、風間 麻実、古庄 弘美、佐藤 美華、下村 政裕、篠原 昭子、篠原 大作、清水 益美、清水 雄二、鶴見 和代、藤田 美江子、美甘 政門、平岡 宏一、三島 康雄、山本 博子、山本 嘉彦、渡邊 剛人

切手・書き損じハガキ等

JSCO、日本郵船(株)、(株)ジェーシービー、パナソニック(株)、樋口 謙一郎、丹波 佐和子、三島 康雄、藤 恵美子

ご協力いただいた方及び団体

国連ハビタット福岡本部、国連ハビタット福岡本部協力委員会、福岡県、東京福岡県人会、(福)千代田区社会福祉協議会、ちよだボランティアセンター、国際協力機構(JICA)、地球環境基金、日蓮宗あんのん基金、半蔵門駅前郵便局、(株)新橋スタンプ商会、(株)トラベルクリエイイターズ、トラベレックスジャパン(株)、(公社)日本フィランソロビー協会、麗澤大学、椋山女子学園大学、順天高等学校、青山学院大学、札幌市立大通高校、(一財)シルクセンター国際貿易観光会館、ハビタット福岡市民の会、こどもの夢ネットワーク、アジアの女性と子どもネットワーク、ボランティア・ハビタットフレンズの皆様

募金箱設置にご協力いただいた企業等

成田国際空港(株)、東京国際ターミナル(株)、北海道エアポート(株)新千歳空港事務所、中部国際空港(株)、関西エアポート(株)、福岡国際空港(株)、博多港開発、西部ガス共同事業体、長崎空港ビルディング(株)、那覇空港ビルディング(株)、逗子市民交流センター、(株)新橋スタンプ商会

発行：認定NPO法人 日本ハビタット協会（発行責任 篠原大作／編集責任 山本 博子）

〒102-0092 東京都千代田区隼町 2-12 藤和半蔵門コープ 103 号 TEL／FAX：03-3512-0355

E-mail：info@habitat.or.jp／URL：https://www.habitat.or.jp

2022年1月発行



HABITAT 日本ハビタット協会

JAPAN HABITAT
ASSOCIATION

まちづくり通信 No. 40

Thank you
★20th★

日本ハビタット協会は、国連ハビタットと共に世界中の人々が安全で安心して暮らせるまちづくりを推進しています

どんな事にも負けない「レジリエントなまち」

マリ・クリスティーヌ

日本ハビタット協会は、2021年で設立20年を迎えました。これまで活動を続けてこられたのは皆様からのご支援のおかげと、心から感謝申し上げます。

ハビタットの実施している事業は、人々の居住環境の改善、災害や紛争後の復興、水道や衛生施設の提供等、地味で目に見えにくい仕事です。しかし、人は住む家や水、トイレがなければ、命の維持が難しくなります。大切な命を守るための重要な仕事であると私は大きな誇りを感じています。

そして、もう一つハビタットが大切にしているのは、コミュニティでの人との繋がりで。先日、私は瀬戸内海の人口700人ほどの小さな島を訪問しました。島の人は皆知り合い同士で、車や家に鍵もかけず暮らしている様子に驚きました。コンビニもスーパーマーケットもないため、多くの家が畑で自分たちの食べ物を作っており、お互いに作った野菜や米などを交換し合えば足りると島の人は話してくれました。信じあい、助け合う繋がりの深いコミュニティで、昔の里山の暮らしがそこにはありました。

私はSDGsが採択された時から、その達成のためには、このような「里山の暮らし」を取り戻すことが必要なのではないかと考えています。昔から日本には「結い」や「講」などの相互扶助の文化があり、地域の中で繋がりながら暮らしてきました。現代は「個の時代」と言われていますが、「個」は大切にしながらも、人と人との繋がりを増やしていくことで豊かさは倍増し、大きなエネルギーが生まれるのではないかと思います。

国連ハビタットには、「Community is Immunity」という名言があり、私が大好きな言葉です。まさしくコミュニティは免疫です。人と人との繋がりは何があっても立ち上がることができる大きな力に直結します。近年自然災害が多発していますが、想定外の災害にすぐに対応できるのは「人の繋がり」です。日本ハビタット協会は、これからも人との繋がりを大切にして、どんなことにもしなやかに対応できるレジリエントな「まち」を作り続けるために力を発揮していきたいと思います。

香川県豊島 みかんの良心市場にて

高台から眺める里山と美しい瀬戸内海

コロナに負けないまちづくり…皆さまのおかげで事業が進んでいます！…



技術指導を受け、生産力を高めて地域農業の活性化につなげたい。

マンスリーサポーターの皆さんのご支援のもと、ケニアとラオスにおいて、新型コロナウイルス感染症の拡大により経済的なダメージを受けている人々を支援するため、所得向上に向けた農業技術指導が始まっています。

ラオスのセニャブリー県サイサタン地区では、9月より農業局による農業技術指導が始まりました。果樹の苗木の増殖技術、提供した野菜の種を活用した有機野菜の栽培指導を行っています。ラオスでは新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐため、ロックダウンや県や地区をまたぐ移動の制限を行っており、人々の経済活動も制限され、暮らしに影響が出ています。特に、セニャブリー県では、6月に大雨による洪水が発生し、事業実施地域でも人々が育てていた農作物が被害を受け、大きな打撃となりました。

こうした状況でも、農業技術指導などを行うことで、人々が着実にスキルを身につけながら、自らの暮らしを立て直し、良くしていくためのあゆみを進めています。

ラオスのセニャブリー県サイサタン地区。果樹や有機野菜栽培の技術指導が始まっています。

住み続けられるまちづくりの実現に向けて

日本ハビタット協会は地域住民とその地域が抱えている問題と解決方法を一緒に考え、協力しながら事業を実施します。それにより、地域の問題解決能力が向上し、将来的に地域主体で事業が継続していくことが可能になります。そして、その取り組みが、他の地域へ波及していくことで、より広い地域の暮らしが改善することにつながります。それが私たちの目指す「住民主体の住み続けられるまちづくり」です。

持続可能なまちづくりに向けた取り組みはさまざまですが、設立20周年を新たな出発点として、当協会は水と衛生環境、そして環境問題に焦点をあてた事業を展開していきます。

水は人々の命と暮らしの根源になりますが、世界では安全な水にアクセスできない人が多く存在しており、早急に解決しなければいけない課題です。日々の暮らしで使用する生活水を安定して供給していくコミュニティベースでの持続可能な給水システムを構築することで、人々の命と暮らしが守られた地域社会を創造していきます。

衛生環境は貧困といった負の連鎖を断ち切り、人々が健やかな生活を送る上でとても重要です。スマイルトイレプロジェクトの事業規模をさらに拡大するとともに、本プロジェクトを通して蓄積された技術と事業運営手法を活かして、同様の問題に苦しむケニア国内の他地域や隣国に事業を拡大していきます。

環境に配慮したまちづくりは世界が注目している課題の一つです。過去の実環境保全事業では、植林や果樹増殖技術や有機農法指導、ゴミ分別などに取り組んできました。これらの経験と技術を活かしながら、自然から恩恵を受けながら生活している地域において環境保全事業を展開し、人々の暮らしと自然の双方が守られた地域社会の創造に寄与していきます。

皆さまのご協力と
人と人とのつながりが、
様々な支援活動を
支えています。

市民の皆さまとともに

2015年の持続可能な開発目標（SDGs）と2016年の第3回国連人間居住会議（ハビタットIII）において制定されたニュー・アーバン・アジェンダ（New Urban Agenda）では、世界課題の解決にはNGOが重要な役割を担うとされました。私たちは、市民団体であるNGOとして、みなさまに支えられて今日まで活動してきました。空港の募金箱回収活動をはじめ、外貨コイン仕分け活動、過去に行った街頭募金活動などのボランティア活動に多くの方々に参加してくださっています。また、国内で災害が発生した際は、支援物資の調達や輸送などにもご協力をいただきました。これまで育んできた人と人とのつながりを大切にしながら、さらに広げていきます。当協会の理念や活動に共感していただいたみなさまの思いをしっかりとつなぎ、世界中の人々の笑顔あふれる暮らしをつくっていききたいと思います。これからも、皆さまのご協力をお願いいたします。

日本ハビタット協会がみなさまと取り組んできたSDGs事業



スマイルトイレ
プロジェクト



環境教育
プロジェクト



1日3食
プロジェクト



教科書
プロジェクト



パートナーシップを活かした
災害復興支援

ご支援・ご協力
ありがとうございます。

安全な水と
衛生環境が
健やかな生活を
支えています。

自然環境と共生した
人々の暮らしを
守っていきます。



ケニア スマイルトイレプロジェクト

家でトイレが使えるようになりました

人々が健康で日々の暮らしを送るため、また新型コロナウイルスのような予期せぬ感染症を防ぐためにも清潔な衛生環境が必要となります。2019年8月からケニア西部ホーマベイ県にて、JICA草の根技術協力事業として実施している「スマイルトイレプロジェクト」では、各家庭にトイレと手洗いの設置がどんどん進んでいます。

2020年3月上旬にケニアで初めての新型コロナウイルス感染者が発見されて以降、職員の現地渡航が難しくなりましたが、現地協力団体「SAWA YUME KENYA」を中心に区保健省、地域住民が協力することでトイレ建設が進み、事業の対象となる34村のトイレ普及率は94%以上になりました。いつでも清潔で安全なトイレが使えるようになったことで下痢などの感染症が減り、生活環境が改善されました。

今年も
現地の声をお
届けします。
お楽しみに！



視察の様子を
動画でお届け！



ケニア西部ホーマベイ県 特産のバナナは現地でも人気



プロジェクトに地域住民が参加することで、新しいトイレ建設がより一層進んでいます。

1年半ぶりに現地を訪れて …………… 篠原 大作

ケニア政府による入国制限緩和等を受けて、1年半ぶりに現地視察に訪れました。ケニアでは感染者数が落ち着きつつあるものの、さまざまな要因からワクチン接種が進まない中で、手洗いや清潔な衛生環境という基本的な感染予防がとても重要で、私たちのプロジェクトがケニアの農村部の現状に合っているとあらためて感じました。

各村の活動状況を視察する中で、地域の人が多くの困難に直面しながらも一つひとつ乗り越え、トイレ建設のための知識と技術を身に付けてきたのが分かりました。自分達が建設したトイレを自信に満ちた笑顔で説明して下さる姿を見て、国連ハビタットと日本ハビタット協会が目指す住民主体のまちづくりが進んでいるのを実感でき、とても嬉しくなりました。



現地からのメッセージ

地域リーダー／Charles氏

私は農業技術指導を受けて、収入が向上したことで、SATO Pan付きの立派なトイレを建設することができました。私はこの村のリーダーとして、他の村人へも農業指導やトイレ建設をサポートしていますが、このプロジェクトを通して、多くの村人の家にトイレができて、野外排泄がなくなりました。とても素晴らしいプロジェクトだと感じています。

また、このプロジェクトを担当しているSAWA YUME KENYAのJavan氏とKodipo氏は、トイレの普及や衛生意識の向上のため、村々を丹念に回り住民へ非常に熱心に働きかけてくれています。こうした若者の働きをとても誇らしく思っています。



コミュニティ
発展のための
給水システム事業
を検討中

命と暮らしの根源となる水を

水は私たちの暮らしにはなくてはならないものです。日本では年中雨が降り高度な水道技術により、どこでも安全な水を使用することができますが、世界に目を向けると安全な水にアクセスできない人が多く存在します。特に、開発途上国の農村地域や雨季と乾季に分かれている地域では、安全な水を確保するのが非常に難しいのが現状です。

スマイルトイレプロジェクトを実施している地域においても源泉である川や池、雨水、浅井戸から得られる水には限りがあります。水汲みは、ほとんどが女性の仕事ですが、労力は相当なもので、往復1時間を1日に何回も繰り返す場合もあり、水質も良くはありません。より良い地域の発展のため、コミュニティベースでの給水システム事業を来年度開始したいと考えています。